

## 第5学年 音楽科学習指導案

指導者 栗山 ひとみ

1 題材名 詩と音楽を味わおう

2 目 標

○歌詞と旋律のかかわりから曲想を感じ取って聴いたり、歌詞の内容や曲想を生かして歌ったりする学習に進んで取り組む。 (音楽への関心・意欲・態度)

○旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌唱表現を工夫する。 (音楽表現の創意工夫)

○旋律の特徴や強弱の変化を生かして、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌う。 (音楽表現の技能)

○歌詞と旋律のかかわりから、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

小学校学習指導要領解説の第5学年及び第6学年の内容A表現の指導事項（1）には「イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」とあり、この事項は「音楽を感じ取って歌唱の表現を工夫する能力を育成するために、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う」という内容を示したものである。同じく内容B鑑賞の指導事項（1）「ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」とある。これは、「楽曲を全体にわたって感じ取る能力を育成するために、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く」という内容を示したものである。本題材は、歌詞と旋律が一体となって生み出される曲想を感じ取りながら聴いたり、歌ったりして、その美しさを味わうようにするとともに、歌詞の内容や強弱から感じ取れる曲想を基に表現を工夫することをねらいとしている。鑑賞と歌唱の学習で構成することで、鑑賞を通して身に付けたことを歌唱に生かすことができ、詩と音楽を味わうことができると考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態（児童数 28人）

○歌うときに何に気を付けていますか。

- ・声の高さ 　・高音と低音 　・息の吸い方 　・おなかから声を出す 　・大きな声で歌う
- ・まちがえない 　・きれいに歌う 　・どならない 　・はきはき歌う 　・気持ちを込めて
- ・強弱

本学級の児童は、大きな声で歌うことに楽しさや喜びを感じる児童が多く、朝の会で毎日、「今月の歌」を元気に歌っている。しかしながら、どんな曲であっても「大きな声で」「元気よく」歌っていて、楽曲の歌詞の表す情景をとらえたり、それにふさわしいように歌い方を工夫したりするまでには至っていない。アンケートを見ると、声の出し方や音程に気を付けている児童は多いが、歌詞に目を向けている児童はほとんどいない。また、友達と合わせるということをあまり意識していないように感じる。さらに、高学年になり人前で歌うことに抵抗が出てきた児童もいる。

(3) 指導観

指導にあたっては、大正時代につくられた山田耕筰の歌曲「待ちぼうけ」を取り上げ、部分的に歌詞唱と音読を行うことで、歌詞と旋律が一体となって曲想を生み出していることに気付けるようにする。そして、詩の内容をどのように工夫して表現しているかについて、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えられるようにし、それらがどんな効果を生むか理解することで、表現の活動に生かせるようにする。その上で、テレビアニメのエンディングテーマとなり、本校の「今月の歌」としても歌っていて児童になじみのある松井五郎作詞の「世界がひとつになるまで」を扱う。ここでは前時の学習を生かし、指導用CDを聴くことで強弱の違いに注目させ、それらに気付いて聴く喜びを深めるとともに、楽曲の歌詞や曲想を生かした表現方法について考える活動を取り入れる。さらに、意見を出し合い、実際に工夫しながら歌う活動を通して各々がどのように表現するか思いや意図をもつことができれば、曲想を生かし表現を工夫して歌うことができ

るようになると考へる。

(4) テーマに迫るために

「意欲をもって主体的に学ぶ児童を育てる指導の在り方」

～特別活動ではぐくんだ力を学習面で生かす工夫を通して～

本学級は話し合い活動では進んで意見が言える児童が多く、徐々に自分とは違う考えも受け入れられるようになってきた。また2学期の係活動では、各係の創意工夫が生かせるような活動について話し合い、改善、実行してきた。それらの活動を通し、言語による表現力が身に付いてきたと考える。そこで、児童が参加する市小中学校音楽発表会の曲「世界がひとつになるまで」の練習を通し、表現の工夫について意見を出し合うことで、音楽的な表現の技能を身に付けることができるようとする。

5 教材について

「待ちぼうけ」 北原白秋 作詞／山田耕筰 作曲

「世界がひとつになるまで」 松井五郎 作詞／馬飼野康二 作曲／原由多加 編曲

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①「待ちぼうけ」の詩と音楽が一体となった日本の歌曲のよさや特徴に気を付けて聞く学習に主体的に取り組もうとしている。 ②「世界がひとつになるまで」の歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①「世界がひとつになるまで」の音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつている。	①歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌っている。	①「待ちぼうけ」の言葉と旋律のかかわりや、曲想とその変化などの特徴を感じ取りながら、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲全体の曲想や表現の工夫を味わって聴いている。

7 学習活動と評価の計画（4時間扱い）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	題材の評価規準
1	1	⑥「待ちぼうけ」 <ul style="list-style-type: none"><li>・楽曲の特徴や表現の工夫を感じ取って聞く。</li><li>・歌詞の表している内容と、旋律の動きや言葉の感じなどを生かして歌う。</li></ul>	○詩を朗読したり、ときには歌ったりしながら、音楽が一体となって生み出される日本の歌曲の美しさを味わえるようにする。	ア-① エ-①
2	1	⑩「世界がひとつになるまで」 <ul style="list-style-type: none"><li>・主な旋律と副次的な旋律を合わせて歌う。</li><li>・歌詞や指導用CDの範唱を基に、歌い方を考え、話し合う。</li><li>・歌い方を工夫する。</li><li>・表現の工夫を生かして歌う。</li></ul>	○合わせて歌うことで、曲全体の感じがつかめるようにする。	ア-②
	2		○話し合いを基に、それぞれが思いや意図をもてるようにする。	イ-①
	3		○前時の学習を生かして工夫して歌えるようにする。	ウ-①

## 8 本時の学習（第2次、第2時）ねらい

### (1) ねらい

強弱の変化を感じ取り、歌い方を工夫する活動を通して、自分の考えや願い、意図をもつ。

### (2) 準備・資料

拡大楽譜、学習カード、録画機材、指導用CD

### (3) 学習の展開

★テーマに迫るための手立て

学習内容と主な学習活動	形態・資料	指導上の留意点・評価
1 「赤いやねの家」を歌う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の好む曲を全員で歌い、学習への意欲を高める。</li> <li>○姿勢や声の出し方など、基本的な歌い方の確認をする。</li> </ul>
2 本時の学習課題を知る。  「世界がひとつになるまで」の山場の部分の歌い方を工夫しよう。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時は、前時に学習した曲の山場の部分について学習することを確認し、今日の学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>
3 「世界がひとつになるまで」の山場の歌い方を工夫して歌う。  (1) 山場の部分の特徴について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱CDを聞く。</li> <li>・楽譜で確認をする。</li> </ul> <p>&lt;予想される発言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アの部分に比べてイの部分は強弱記号が多い。</li> <li>・フォルテからメゾピアノになっていく。</li> </ul>  (2) 山場の部分の歌い方を工夫する。 <p>&lt;予想される発言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じフォルテでも、「あたたかい」感じができるフォルテにしたい。</li> <li>・メゾピアノのところは、話しかけているように歌いたい。</li> </ul>	拡大楽譜 個別 グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カードに記入することで、感じたことや考えたことを児童が自信をもって発言できるようする。</li> <li>○友達の発表を聞き、さまざまな捉え方があることに気付くことやそれらを認めることができるようする。</li> <li>○拡大楽譜を掲示し、児童から発表されたことを記入して、確認しながら進めるようする。</li> <li>○「どうしてそう感じたか」を問うことで、強弱と関連付け、感じ取ったことを表現するためにはどのような歌い方をすればいいか考えられるようする。</li> <li>○強弱記号をどのように表現するのか、出した意見を基に歌い、表現の技能が身に付くようする。</li> <li>○歌詞の意味を話合い、どのように表現するか考えることで、さらに考えが深められるようする。</li> </ul> <p>※音楽表現の創意工夫</p> <p>強弱の違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつていてる。（学習カード・発言の聴取）</p>
4 話し合ったことを表現の工夫に生かして歌う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拡大楽譜を見ながら、話し合ったことに気を付けて歌うように助言する。</li> </ul>

<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時に録画したものを見る。</li> <li>・「どのように歌いたいか。」を学習カードに記入する。</li> <li>・次時の学習内容を知る。</li> </ul>	<p>一斉 個別</p> <p>一斉</p>	<p>○録画したものを視聴することで、全員が聴く立場で工夫できたかを振り返ることができるようとする。</p> <p>○本時で学習したことを生かしてどのように歌いたいかを記入することで、児童の思いや意図を見とれるようとする。</p> <p>○学習カードへの記入ができない児童には、板書等を基に本時の学習を振り返るよう助言する。</p>
--	----------------------------	--